

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 43 号:2016 年 9 月－10 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2016年1～9月期のウズベキスタンのGDP成長率は7.8%

1～9月期、鉱工業生産は7.2%、建設業は15%、小売業は14.2%、サービス業は12.4%の伸びを示した。農業生産の伸びは6.4%であった。国の財政収支は対GDP比0.1%の黒字であった。投資総額は9.4%、そのうち外国投資は11.2%の伸びを示した。

1～9月期の商品とサービスの輸出の伸びは前年同期比1.4%であった。とくに、生鮮および加工済みの果実・野菜製品の輸出は40%増え、54万3,000 tを上回った。

2016年10月1日時点で活動している小規模企業の数は21万5,800社に達し、前年同日より5.8%増えた。鉱工業生産に占める小規模企業および個人事業主の割合は43.8%（2015年1～9月期は38.7%）に達し、小売業においては89.9%（同87.3%）、サービス業においては60.0%（同57.6%）、貨物輸送業においては53.8%（同51.6%）、旅客輸送業においては90.7%（同88.0%）、そして雇用の77.8%（同77.5%）を占めた。

政府の予測によると、2017年のGDP成長率は7.8%程度になる見込みである。同年の鉱工業生産の伸びは6.9%、農業生産は6.2%、資本的支出は9.6%程度になる見込みである。同年、ウズベキスタン経済の税負担はGDPの20.2%から18.9%に削減され、課税緩和と税務行政の改善が予定されている。

アジア開発銀行(ADB)による2016年のウズベキスタンのGDP成長率予測は6.9%で変わらず

ADBは7月に『アジア経済見通し(Asian Development Outlook)』において前回のウズベキスタンのGDP成長率予測を発表した。2017年の予測も7.3%のまま変化していない。2016年と2017年の物価上昇率予測もそれぞれ10%と11%で変化していない。同行の見解によると、2016～2017年のウズベキスタン経済は、依然として主な貿易相手国、とくにロシア、中国、カザフスタンの市場動向および天然ガス、金、銅、綿など特定の輸出品目の価格の変化に左右される見込みである。また、同行によると、鉱工業部門への投資ならびに賃金、年金、その他の補助金の引き上げによる内需促進が今後数年間のウズベキスタン経済の主な成長源となる。同国政府は2016年のGDP成長率を7.8%（2015年は8%）と予測している。

国際通貨基金 (IMF) が 2016 年のウズベキスタンの GDP 成長率予測を 6% に上方修正

IMF は 2016～2017 年のウズベキスタンの GDP 成長率が 6% になるものと予測している。当初、IMF は 2016 年の GDP 成長率を 5%、2017 年については 5.5% と予測していた。更新された予測によると、2016 年の物価上昇率は 8%、2017 年は 9.8% とされている。2015 年の経常収支はゼロであったが、2016 年は GDP 比 0.1% になるものと予測されている。IMF は、ウズベキスタン経済は産業・インフラ近代化プログラムの実施により成長を続けるとの見解を示している。その一方で、主要な輸出品である綿、ガス、金の価格の動向が不透明であることがリスク要因となる。

欧州復興開発銀行 (EBRD) による 2016 年のウズベキスタンの GDP 成長率予測は 6.5% で変わらず

EBRD は、2017 年のウズベキスタンの GDP 成長率は 6.2% になるものと予測している。同行の予測によると、2016～2017 年の物価上昇率は 9% 程度にとどまる見込みである。物価上昇率の予測も前回と変わっていない。

二国間関係

ウズベキスタンとカザフスタンが 2017～2022 年の経済協力戦略を策定

同戦略では、石油、石油製品、自動車、機械、電気機器、化学製品の輸出およびその他の取り組みを行う合弁企業ならびに（もしくは）商社の設立が想定されている。また、ウズベキスタンとカザフスタンは、両国の企業間協力を促進するため、国境における共同貿易区の設置や国内メーカーの定期的な見本市の開催の可能性についても検討している。

ウズベキスタンとトルクメニスタンが両国間の貿易の拡大について協議

具体的には、ウズベキスタンは機械、電気機器、化学製品、バスや特殊車両、公共作業用車両などを含む自動車、綿収穫機およびその他の農機、建材、家電製品、加工済みの果実・野菜製品などの輸出を増やそうとしている。また、輸送・トランジット分野における協力の拡大も見込まれている。ウズベキスタン・ハヴォ・ヨラリの子会社 Uzbekistan Airways Technics におけるトルクメニスタンの航空機の修理およびメンテナンスに関する協力の可能性が検討されている。

2015 年の両国の貿易額は 3 億 1,970 万ドル、2016 年 1～8 月期は 1 億 7,710 万ドルであった。ウズベキスタンでは、トルクメニスタン側が出資する企業 7 社が事業を行っている。各社の主な事業分野は、貿易、サービス、繊維産業、外装材や家具の製造である。

る。トルクメニスタンにおいてはウズベキスタン国民が出資する企業 6 社が設立されており、トルクメニスタンへの工業製品の輸出を行っている。

投資・金融セクター

ウズベキスタンは水力発電所近代化のためアジア開発銀行 (ADB) から 2 億 1,500 万ドルの融資を受ける予定

このプロジェクトでは、3 基の既存水力発電所の近代化および 3 基の小規模水力発電所の建設が計画されている。ADB はプロジェクト開発に対する技術支援として 250 万ドルを供与する。2015 年 11 月、ウズベキスタン政府は、2016～2020 年の水力発電発展プログラム（総額 8 億 8,940 万ドル）を承認した。このプログラムにより、9 基の水力発電所が新規建設されるとともに既存の 15 基が近代化される予定で、その結果、年間発電量は約 52 億 5,000 万 kWh 増える見込みである。

ウズベキスタンとイスラム開発銀行が 2017～2019 年の協力戦略を採択

同戦略には、総額 14 億ドルのプロジェクト 21 件が含まれる予定である。イスラム開発銀行は、ウズベキスタンにおける保健、教育、灌漑・土地改良、発電、上水道、公共サービス、道路インフラ整備、小規模企業支援といった分野のプロジェクト 26 件の実施のため、現在までにすでに約 15 億ドルを供与した。同行のウズベキスタンに関する戦略は、①インフラと農業の近代化、②社会セクターの発展、③民間セクターの発展、の 3 つの方向性から成る。また、同行は、地域統合・協力推進のため、中央アジア地域特別プログラム（総額 60 億ドル）を開始した。

ウズベキスタンで 3 つの自由経済区が新たに設置される予定

新設が計画されているのは、フェルガナ州の自由経済区「コーカンド」、サマルカンド州の「ウルグト」、ブハラ州の「ギジドゥヴァン」である。このような自由経済区は、効率性の高い既存の工業地域を基盤に設置される。たとえば、ウルグト地区の小規模工業地域では、すでに合弁企業 19 社を含む 40 社が稼働しており、約 1,200 人が雇用されている。2015 年、同地域では 20 種類以上、総額 1,575 億スムの工業製品が生産され、輸出額は 1,000 万ドルを上回った。2017 年、ウルグト地区ではさらに 78 件の工業製品生産プロジェクトが実施される予定である。

国営航空会社ウズベキスタン・ハヴォ・ヨラリ、国営対外経済活動銀行、ウズアフトル、ナヴォイ採鉱精錬コンビナートは株式会社となり、普通株式の 100% を国が保有する

ウズベキスタン・ハヴォ・ヨラリ、ウズアフトル、対外経済活動銀行およびナヴォイ採鉱精錬コンビナートは、2016～2017 年に株式会社に改組される。これは、ミル

ジョエフ大統領代行が2016年10月17日付で署名した決定「国家が大部分の比率を保有する株式会社におけるコーポレートガバナンスのさらなる向上について」により定められた措置である。

エネルギーセクター

三菱商事と三菱日立パワーシステムズ(MHPS)がナヴォイ発電所で第二のガスタービン・コンバインドサイクル(GTCC)発電設備を建設

この設備の発電出力は450MWである。このプロジェクトにおいて、MHPSはGTCC発電設備の主要機器を納入する。三菱商事はトルコのCalik Enerji Sanayi ve Ticaret A.S.と共同でその他の機器を供給するとともに、機器の輸送および建設・据付作業を行う予定である。完工は2019年の予定である。これに先立ち、このプロジェクトは国際協力機構（JICA）の有償資金協力、ウズベキスタン復興開発基金の融資およびウズベクエネルゴの自己資金により実施されると伝えられていた。事業費は総額5億4,700万ドルを上回る可能性がある。ナヴォイ発電所は、ナヴォイ州、サマルカンド州、ブハラ州に電力を供給している。

自動車・機械工業セクター

カザフスタンでRavonのノックダウン生産開始を計画

共同ノックダウン生産は、カザフスタンのコスタナイ市において行われる予定である。カザフスタン側の評価によると、これは同国市場において最も安価な自動車となる見込みである。Ravonの生産はSKDにより開始され、ウズベキスタンから構成部品が輸入され、ローカルコンテンツは約30%となる。カザフスタン側は、その後CKDに移行してローカルコンテンツを50%以上に拡大する方針である。Ravonの生産開始期日は今のところ明らかになっていない。

その他のセクター

ロシアでウズベキスタン産野菜・果実輸出商社を設立

ウズベクオズィコフカトホールディングの商社は、モスクワとサンクトペテルブルグに設置される。この商社は株式会社となり、ウズベクオズィコフカトホールディング（51%）とロシアのシベリア・アライアンス（49%）が株主となる予定である。すでに、ロシアの小売チェーンであるマグニトとX5 Retail Groupへのウズベキスタン産果実・野菜製品の供給に関する一連の契約や合意が成立している。ウズベキスタン対外経済関係・投資・貿易省とロシア農業省の果実・野菜製品供給分野における協力覚書に基づき、ウズベキスタンからロシアへの果実・野菜製品の輸出に関する二国間ワーキンググループも設置されている。

ウズベキスタンでは2022年までに総額32億ドル相当の繊維産業分野プロジェクトを実施予定

2015～2019年の産業構造改革・近代化・多角化プログラムにより、総額10億ドル相当のプロジェクト70件が実施される予定である。繊維産業、縫製・ニット製造業のさらなる発展プログラムでは、2017年～2021年に22億ドル以上の投資を誘致してさらに140件のプロジェクトが実施される計画である。この10年間でウズベキスタンにおける繊維製品の生産量は4.3倍、輸出量は4倍に増加した。

ウズベキスタン労働省と韓国国際協力団(KOICA)が職業教育分野で協力を拡大

2016年9月、KOICAとHyundai Engineeringの支援によりサマルカンドに設立された職業訓練センターが活動を開始した。このプロジェクトでは、教育・ラボ施設、補助施設、作業所および寮が建設された。同センターは、自動車の技術サービス、溶接・旋盤作業、電気技術、電子技術、情報技術の専門家の養成に特化している。

教師の採用は競争試験により行われ、韓国の大学の教授陣が参加して選抜が行われた。試験に合格した教師たちは、韓国技術教育大学の技能向上コースを修了した。

ウルゲンチ、シャフリサブズ、コーカンドでも同様の職業訓練センターが開設される予定である。最初の職業訓練センターは2012年にタシケントで開設され、これまでに2,000人以上の若者が訓練を受けた。